

あけぼの桜

藤田学園同窓会

住所 豊明市沓掛町田楽ヶ窪
1番地98
発行人 藤田学園同窓会
発行日 平成30年12月25日



藤田医科大学病院B棟



目次

P. 2	藤田学園同窓会会长ご挨拶	P. 16~17 学会支援事業報告
P. 3	学校法人藤田学園理事長ご挨拶	P. 18 いこいの広場コンサート
P. 4	藤田医科大学ばんたね病院病院長ご挨拶	P. 19 学園祭報告
P. 5	藤田医科大学七栗記念病院病院長ご挨拶	P. 20 2018年度ホームカミングデーを開催して
P. 6	藤田医科大学看護専門学校校長ご挨拶	P. 21~22 同窓会を開催して
P. 7~13	施設の紹介	P. 23~24 同窓会・各部会お知らせ
P. 13	平成29年度国家試験結果	P. 25~28 同窓会総会報告
P. 14~15	卒業生の活躍	P. 28 定款・細則
P. 15	恩師からのお便り	P. 31 獎学金貸与規程



一般社団法人
藤田学園同窓会
会長

松山 裕宇
(医学部第6回生)

同窓会会長あいさつ

同窓生の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと拝察いたします。

母校では、平成30年10月10日に学名が藤田保健衛生大学から藤田医科大学に変更されました。藤田学園をさらに明るい未来に導くために、私共卒業生全員がより強固な一枚岩となって応援する時代が参りました。

「藤田学園同窓会」には、藤田医科大学看護専門学校、藤田保健衛生大学短期大学(2010年閉校)、藤田学園医学技術専門学院(2001年閉校)、藤田医科大学医療科学部・保健衛生学部、藤田医科大学医学部、藤田コンピュータ専門学校(1997年閉校)、藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校(2007年閉校)の7つの学部・学校の同窓会部会がございます。藤田学園同窓会は、藤田学園すべての卒業生の融和の象徴として、学園創始者の藤田啓介総長により1980年に設立されました。その目的は、これら7つの同窓会を統合し、会員相互の親睦を図り、医学・医療等に従事する会員の教育と資質向上に寄与し、かつ総合医療教育機関である学校法人藤田学園の発展に貢献することにあります。会員数は延三万名を超え、

奨学制度や学生環境改善プロジェクトなどによる在学生への支援、会員へのサービス、母校への協力を積極的に行っております。

今回の学名変更に伴い、藤田学園の未来に向けた改革とキャンパス再構築がさらに進んで参ります。また、キャンパス再構築に際して取り壊される予定の建築物や構造物のうち、私達の母校の理念や歴史を将来に伝承し得る重要な史跡の一部(大日如来像、宝冠、華蔓、アセンブリータワー、定礎の言葉、四季の童、銀の矢、太陽の道など)を保存する機会を利用して、今一度藤田への愛校心や藤田イズムの確認をしていく時期が来ております。

私ども卒業生にとりましては、藤田がなければ今の社会活動はあり得ません。卒業生として自分たちの学生時代をもう一度想い起すことにより、故・藤田啓介総長やご指導頂いた恩師・学び舎への感謝、愛着などが芽生え、初めて藤田学園への帰属意識が高まり、卒業生としての絆も深まっていくものと思います。

①我ら弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく医を行わん、②少しくらい寒くてもじっと我慢を、少しくらい幸せでもじっと祈る心で、③藤田学園づくりに寄せて～負けてたまるか リスにひとりごちけり 七栗の谷～など、獨創一理とともに守っていく精神がここにあります。

同窓会は、母校と連携を図り、来るべき50年後の新しい藤田学園の構築と母校の理念や歴史の継承に向けた事業を展開してまいります。

引き続き皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



病院定礎の誓い



我慢人形・祈り人形



七栗校地総長藤田啓介祈念碑
「学園づくりに寄せて」



就任御挨拶

学校法人藤田学園
理事長
藤田医科大学
学長

星長 清隆

本年10月2日をもって小野雄一郎先生の後を継いで、学校法人藤田学園理事長に就任させて頂きました。また、10月10日には大学名を藤田保健衛生大学から藤田医科大学に改名致しましたが、学長職は私が引き続き兼務させて頂くことになりました。

学内での大学名変更記念式典は、10月10日に2000人ホールにて学内外理事、名誉教授、各学部教員、幹部職員などが参加し、短時間でしたが厳かに挙行させて頂きました。

また、対外的行事として10月21日に、ヒルトン名古屋ホテルにて、午後0時30分より、第一部として藤田医科大学開学50周年ならびに校名変更記念式典を行いました。元環境大臣・衆議院議員 鴨下一郎先生、愛知県知事 大村秀章先生、文部科学省大臣の代理として同省高等教育局私学部長 白間竜一郎様、厚生労働省東海北陸厚生局長 堀江裕様、日本私立医科大学協会会長 寺野彰先生、名古屋市医師会長 服部達哉先生、さら New York の Memorial Sloan Kettering Cancer

Center 元外科部長 Sir Murray F. Brennan 博士ら、多くのご来賓の皆様方から御挨拶を賜りました。さらに第二部として F. Brennan 博士による 60 分間の記念講演が行われ、その後、ダヴィンチ支援手術に関するシンポジウムが、本学から総合消化器外科の宇山教授と腎泌尿器外科の白木教授、MOU を締結しているソウル国立大学から 2 名の外科教授、国立台湾大学からも 2 名の外科ならびに耳鼻科の先生方の参加のもとに行われました。そして最後に、第三部として記念祝賀会を催し、元文部科学大臣ならびに元内閣官房長官であられた河村建夫衆議院議員、河村たかし名古屋市長、国際医療福祉大学副理事長の北島政樹先生方による有難い励ましの御挨拶があり、元参議院議員の草川昭三先生による乾杯の後、祝宴が始まり、中締めまで大変盛り上がった楽しい会となりました。

さて、学校法人藤田学園は 1964 年に故藤田啓介博士により創設され、1968 年に本学の前身である名古屋保健衛生大学が誕生し、まさに今年が丁度 50 周年となります。当時は看護師と臨床検査技師部門のみの衛生学部として発足致しましたが、1972 年には医学部と総合医科学研究所が加わり、さらに翌年には現在の豊明の地に名古屋保健衛生大学病院が開設されました。ここに現在の医療系総合大学としての礎が築かれました。また、1987 年には三重県久居市(現在は津市)に我が国の大学初となるホスピスとして七栗サンナトリウムが設立され、患者

中心の全人的医療を目指す現在の藤田の精神が確立されました。

お陰様で皆様のご支援と教職員の絶え間ない努力により本学は確実に発展を遂げております。例えば DPC を基にした厚生労働省による MDC の分析では、3 年連続で日本一多彩な疾患を治療している大学病院に選ばれました。また権威のある英国 THE 社の大学世界ランキングにおきましても、本学の研究成果は大変高く評価され、2 年連続で国内の全大学の中では東大、京大、阪大、東北大、東京工大、名大に次いで 7 位のグループにランクされ、私立大学では 1 位と評価されております。さらに本年 8 月に受審しました、国際的に最も権威のある病院評価機関 JCI による審査でも、本大学病院は全評価項目 1,270 のうち 1,268 項目 (99.8 %) が適合という前例の無い最高の評価を受ける事が出来ました。

今回、私どもは大学開設 50 周年という記念すべき年に、大学名を藤田保健衛生大学から藤田医科大学と改名させて頂きました。私たちはこれから新たな 50 年に向けて、我が国の医療・福祉の更なる発展と、地域住民の皆様が常に安心して医療、介護が受けられる環境を整えるべく、大学の本分である教育、研究、ならびに診療に対し、それぞれに高い目標を掲げて、尽力して参る所存で御座います。今後とも卒業生の皆様の益々のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



藤田医科大学
ばんたね病院 病院長
井澤 英夫

「ばんたね病院」への 名称変更に込めて

同窓会の皆様には日頃より第二教育病院に多大なご支援、ご指導を賜りまして誠にありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

当院は昨年秋に愛知県内に24ある地域医療支援病院の一つとして承認されました。地域医療支援

病院の承認基準である高水準の紹介率/逆紹介率の維持およびオープンベッドの運用等、同窓会の皆様には多大なご指導を賜り心より御礼申し上げます。今後も地域医療支援病院として地域医療の中核を担うとともに地域医療に貢献できる人材育成の拠点を目指して努力して参ります。皆様ご存じの通り、当院は日頃から地域で何かあれば「ばんたねさん」と親しまれ、また頼りにされてきました。本年3月に病院機能評価の更新審査を受けた際には、評価委員の先生から緊密な医療連携や地域と当院との関わりについて他病院のモデルになるような取り組みであると、極めて高い評価も頂きました。今回、大学名の変更を機に、当院が今後も地域の皆さんから愛され信頼され、地域へ貢献できる病院としてあり続ける決意の表れとして「藤田医科大学ばんたね病院」へ

と名称変更することとしました。病院屋上のネオンサインは最新のLED照明に変更し、色もピンク色から藤色へと、当院の変化を象徴するような印象の屋上サインに変わりました。

さて、今年はMRIの増設を予定しています。昨年増設した最新鋭超高速CTと併せて、迅速かつ正確な診断が一層可能になるものと考えております。さらに、4月から多くの診療科で医師が増員しました。地域住民の皆さんや地域医療機関の先生方のご期待に応えられる優秀なスタッフが着実に増えて参りました。同窓会の皆様には今後も当院との円滑な医療連携にご指導、ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

引き続き第二教育病院への温かいご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。



ばんたね病院全景



藤田医科大学
七栗記念病院 病院長
園田 茂

藤田医科大学 七栗記念病院の近況

当院は3年で2度、名称変更を経験することになりました。2016年1月1日にサナトリウムから記念病院に、そして今回2018年10月10日に藤田保健衛生大学から藤田医科大学に。この名称変更には各種負担も伴いますが、当院を改めて知って戴く良いきっかけにもなりました。

私たちが得意としているリハビリテーションや緩和医療の実力をどのくらい地域医療機関や住民の皆さんに知って貰えているかは難しいところです。厳しいリハビリテーションに耐えられる若い患者さんでないと紹介しない、とか誤

解されてしまっている場合もありました。私たちは外部からの七栗記念病院の印象を検討し、分かって欲しいことをアピールするリーフレットに切り替え、高齢の方も無理なくリハビリテーションを行って戴けることも明確に伝えるよう

しています。(図: リーフレットセブンメッセージの一部)緩和ケアへの紹介のタイミングは即入院が必要となる以前のほうがよいことも機会あるごとに周囲に伝えています。

さらに百聞は一見にしかずと、病院見学ツアーを開始しました。2017年5月から8回開催し、現在までに14施設、合計107名が七栗記念病院を見学しに来てくれました。(写真、病院見学ツアー)逆に私たちが施設等に出かけていく出前講座を2017年度には8件、地域住民に対する地域講演会は11件行いました。今年度は近隣の急性期中核病院とのコラボ公開講座も開催しました。

広報は広報する内容があつて初



病院見学ツアー

めて意味を持ちます。七栗記念病院は自らの水準を担保するため、日本医療機能評価機構の病院機能評価を15年前、2003年の9月に初めて受審しました。その頃は機能評価の情報が少なく、不安の中で一生懸命準備したことを覚えています。そこから、2005年には付加機能リハビリテーション、2006年には付加機能緩和ケアを受審して、より専門的な機能の裏付けを取りました。継続を重ね2019年に4度目の本体機能受審を迎えます。

努力を続ける七栗記念病院を、今後ともよろしくお願い申し上げます。

七栗記念病院 回復期リハビリテーション病棟

7つの特徴 ~セブンメッセージ~

Message 1 回復期リハビリテーションの患者年齢構成

幅広い年齢層に対応する回復期リハビリテーション

年齢別患者構成比	脳神経系	整形系
85歳以上	11%	22%
65～84歳	54%	64%
64歳以下	36%	14%

最も多い年齢は、65～84歳となっているが、85歳以上と64歳以下の年齢層も一定数存在

Message 4 リハ

在院日数は、患者の状況

- FIM利得は15.1と大幅に改善して退院
- 在宅復帰率 83.9%

Message 2 リハビリテーションの提供(量的側面)

県内最大級のリハビリスタッフ。患者さんの状態に合わせた訓練時間

リハビリ部門の体制	一日あたり単位数別患者構成(全体)
リハビリスタッフ 10人	100% = 335人 (1単位 = 20分)
リハビリリード 10人	(分) >160 11%
リハビリリード 10人	140～159 36%

Message 5 入院

早めの入院相談が、早い

入院相談
受入判定

リーフレットセブンメッセージの一部



藤田医科大学
看護専門学校
校長
楠本 順子
(衛生学部・衛生看護学科11回生)

藤田医科大学看護専門 学校の近況報告

同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご活躍のことと存じます。

昨年、37号へ寄稿させていただき、早1年が経過したのだなと思いつつ、近況報告をさせて頂きます。

2018年4月に19回生42名を迎えて、全学生120名でスタートしました。愛知県医務課より、定員40名に対し2年連続して定員増のため、報告書を求められ提出しまし

た。愛知県・岐阜県においては、毎年のように看護系大学が新設され、2018年4月現在、全国で277課程となっています。また、2019年4月学校教育法改正の施行にあわせ、看護に関する専門職大学が4校誕生(申請中)するようです。

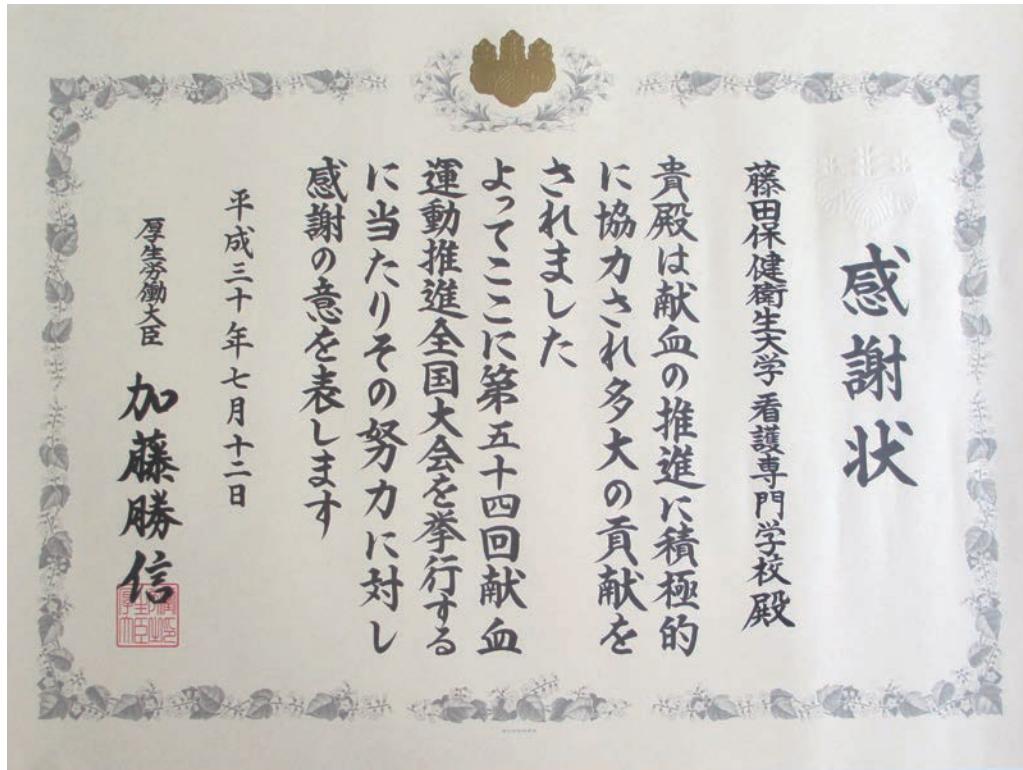
このように看護教育界が激変する中、本校は開学以来の“人間愛を根底に”的精神を受け継ぎ、卒業後もその実践を果たしている卒業生の報告が届きます。6月9日東日新聞へ掲載された記事では、14回生の加藤尚太郎さんが、5月9日新城市川合字乳岩地内の登山道で、滑落し動けなくなっていた35歳の女性を救助したことに対し、新城警察署(鳥居敦署長)より感謝状を頂いたことが掲載されており、教員から後輩の学生たちへ新聞をコピーし、紹介しました。

また、学園祭の役割で、看護専門学校は長きにわたり、献血活動を継続してまいりました。その成果が認められ、2005年には、日本赤十字社より「金色有功章」を頂

いておりましたが、この度、第54回献血運動推進全国大会において、厚生労働大臣から11団体への感謝状贈呈が決定され、7月20日に愛知県献血運動推進大会にて伝達贈呈式が執り行われました。指名を受けた校長が、11団体を代表し愛知県知事(代表)より、感謝状を受け取りました。

学内では、豊明市南部地域包括支援センターとキャラバン・メイトの方々の協力の下、認知症センター養成講座を17回生36名と教員10名が受講し、認知症センターの証である、オレンジリングを各々が頂きました。センターとしての実践に期待しているところです。

10月10日より校名が変更されました。看護専門学校も、少しずつ時代に合わせバージョンアップしていく所存です。同窓生の皆さま、今後ともご指導・鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



献血活動に対する感謝状

施設の紹介



藤田医科大学
再生医療支援推進施設長
松山 晃文

世界の医療は、各国、各々の大学、病院の強みを生かした医療分業へと向かいつつあります。それがGlobal Health Care (国際医療分業/GHC)です。藤田医科大学はGHCの一翼を担いたいと考え、教育病院にて国際的病院機能評価であるJCIを取得、難治性患者の海外からの受け入れを進め、国際

Fujita GHC R&D platformとして展開

医療に貢献してきました。同窓会の先生方のお力もお借りし、先輩方の刻苦励起で2019THE世界大学ランキングでは401-500位群、日本国内では7位群にランク、私学ではほぼトップといえるところまで来ました。

これからもう一歩前に進むため、そして星長学長の「藤田をナンバーワンにする」というミッションを実現、がん、臨床ゲノム、再生医療の一角を担うべく、再生医療支援推進施設は設置されました。

再生医療支援推進施設では、学問としての幹細胞生物学を基盤とし、再生医療・細胞治療という実践にむけた橋渡し機能をコア・コンピテンツとしています。難治性疾患と悪性腫瘍/がんを標的に出口指向型で研究開発(R&D)を行い、新規に設置される無菌細胞培養設備を用いてそれを支援、医療科学部にて再生医療を支える人材

を育成し、教育病院に国内外から患者さんを受け入れて行きます。これら成功体験をもってGHCに貢献、「藤田をナンバーワン」としたいと考えております。具体的には、基礎的シーズとしてCAR-Tを凌駕すべく次世代抗がん細胞を開発中であり、Boyalifeのノウハウを用いた胎盤由来細胞による再生医療研究も開始、展開シーズとして脂肪組織を用いる心不全・肝硬変・劇症型歯周病の臨床も目前にあります。

私たち再生医療支援推進施設では、藤田医科大学をGlobal Health Careにおけるパイオニアたらしめ、Fujita GHC R&D platformとして展開します。

私たち再生医療支援推進施設では何ができるか、常に考えています。



細胞製剤製造



品質管理試験トレーニングコース

元生薬研究塾
別府 秀彦
(衛生学部5回生)

同窓会事務局
丸田 一皓
(衛生学部1回生)

新春に総長藤田啓介
七栗祈念室を
リニューアルオープン

七栗祈念室増設・改修の経緯

学園創設者 故 藤田啓介総長(本文では生薬研究塾塾頭として塾生である学生・教員と、研究と日常生活を共に過ごされた親しみを込め「藤田先生」と呼称します)が1973年に開設した生薬研究塾(註1)(写真1)は、藤田先生のご逝去後に改称と移転を繰り返しながら、2017年3月藤田記念七栗研究所(写真2a,b)を最後に、45年間の歴史に幕を下ろしました。この七栗研究所の1室に藤田啓介博士七栗祈念室が開設されたのが2016年4月のことです(写真3)。しかし翌年、七栗研究所の閉鎖によりこの祈念室の継続すら危ぶまれる状況になりました。

2017年5月、当時の小野雄一郎理事長、星長清隆学長から、閉鎖された研究所の空室を同窓会が活用することで七栗祈念室の増室が可能なのではないか、とのご助言をいただきました。

祈念室の増床によって、藤田先生の約28年に及ぶ七栗での足跡を示す多くの遺品を紹介することが可能になります。直ちに、七栗



写真1



写真2a(手前建物1,2階)



写真2b

【藤田啓介博士 七栗記念室】が開室しました

本学園創設者藤田啓介博士(1925~1990)の生まれ、葬儀係、枕木として同窓会員へお見送ることとともに、1973年7月に生薬研究室にて開設し、生薬研究・実験的理学などにて研究研究、種子収集研究、PTOは研究室にて研究研究を行いました。生薬研究で得た教訓や知識や生活等を多方面に受け入れ、豊かな人生を送りました。

藤田博士の公室、生薬研究室は1990年に藤田博士の孫である藤田啓介博士(現研究会会長)によって、2004年に藤田記念七栗研究所にて改修されました。2016年4月に藤田記念七栗研究所にて改修されました。生薬研究室は、そこでこれまでの研究活動を継承する「藤田博士の公室・生薬研究室」、そしてこれまでの研究活動を継承する「藤田博士の博士・七栗記念室」が設置されました。

七栗校地の施設

03 FUJITA 2016.08

写真3

記念病院施設課、本部総務部、藤田学園同窓会に相談を重ね、祈念室増設の準備にとりかかりました。そして、ご遺族様からも、明らかな私物を除いた遺品のほとんどを快く寄贈して頂くことができました。

藤田先生の生涯において、最も長く過ごされたのが旧三重県久居市の藤田学園 七栗学綜(現 七栗校地;写真4)です。ここは学長・学園理事長・総長としての学園づくりの思索の場であり、学者として研究に没頭された場であり、教員や学生に自ら基礎医学研究の情



写真4

熱を注がれた場所でもあります。

2007年8月豊明校地に開設された獨創一理祈念館が藤田先生の『邂逅・教え・思索』『言靈の語り』の場であるのに対して(写真5)、平成31年新春にオープン予定のこの祈念室は藤田先生のお人柄、ご遺徳を偲ぶ品々や、学園づくりの歴史的資料、研究業績、多数の学生、教職員、来訪者と語り合うその時々の写真が約200枚ものパネルにして展示されています(写真6)。

これにより同窓会初代同窓会会長である藤田先生の教えは、豊明校地『獨創一理祈念館』に続き、2017年3月21日に旧生薬研究塾庭園に建立された七栗校地『総長藤田啓介祈念碑』(写真7a,b)、そして新たに七栗校地『総長藤田啓介七栗祈念室』に継承されるこ

獨創一理祈念館

写真5



写真6



写真 7a



写真 8a



写真 10



写真 7b



写真 8b



写真 11

とになりました。

七栗祈念室の展示物の概要

七栗祈念室に展示される写真や遺品の品々は、藤田先生が七栗で過ごされた足跡と生薬研究塾の変遷(註2)の歴史的記録でもあります。藤田先生が38歳頃に初めて訪れた七栗の当時の様子(写真8a)、山里の谷間を整地し七栗学綜として造成、学綜の拠点である生薬研究塾の開設、教職員、学生のための宿泊施設や温泉入浴施設、プール、キャンプ場などが次々と増設されていく様子を豊富な写真や動画、資料などで知ることができます(写真8b,c)。さらに七栗バーデンバーデン構想で最初に手掛けられた七栗サナトリウムの開院の様子、七栗記念病院に発展するまでを写真で紹介しています(写真9)。

この間、藤田先生は、多くの文化人、著名人、有識者の皆さんと歓談されています。その方々からしても、豊明校地の校舎校庭が学風を反映する立派な建物に比し、七栗の質素な住宅や執務室をご覧になり驚かれることもありました。藤田先生はこの七栗の谷間の自然と名湯七栗の湯(写真10)を愛でおられ、ここを『終の栖(すみか)』として過ごされました。また俳優仲代達矢氏、作家曾野綾



写真 8c



写真 12



写真 9

子氏、日本医師会長武見太郎氏、国際的な研究者達からのお手紙の一部を展示しております(写真11)。また、多くの国内外の訪問者は贈答に美術品や工芸品などを、あるいは教職員が学会、海外研修旅行の報告時に土産を持参されることが多く、これらの品々もその一部を2番目の部屋に展示しました(写真12)。

また、3番目の展示室には藤田先生と学生と交流を描いた写真を展示しました。1978年から始まった全学新入生オリエンテーション

ンでは、学校・学部毎の新入生は七栗を訪れ、学生PSA委員、教員とともに2泊3日の野外テント、飯盒炊飯のキャンプを行いました。藤田先生のキャンプ場での歓迎挨拶のお姿や肉声に触れた思い出をもつ卒業生には、大変に懐かしい情景を再現しております(写真13a,b)。

この行事で七栗を訪れた教職員学生は約20年間で1万数千人とされています。さらに千名以上にも及ぶ衛生学部と短大の卒論研究生や看護科学生・保健師実習生が病院実習をしながら、宿舎生活を過ごしました。さらには藤田先生ご逝去後も、七栗で学び、寮生活を過ごしたリハビリテーション学科、看護学科の病院実習生も千名以上にのぼり、それぞれの時代の額入写真が残されています(写真14)。

4番目の展示室には、藤田学園づくりに寄せて『負けてたまるか



写真 13a



写真 13b



写真 14

りすにごちけり 七栗の谷』総長 藤田啓介。これは七栗に慈しみを注がれる藤田先生が68歳(1993年3月)の生誕月に詠まれた句です。この色紙が、藤田先生のご遺影の傍らに掲揚されております(写真15)。

同窓会の皆様が七栗の谷に思いを馳せ、七栗祈念室を見学された

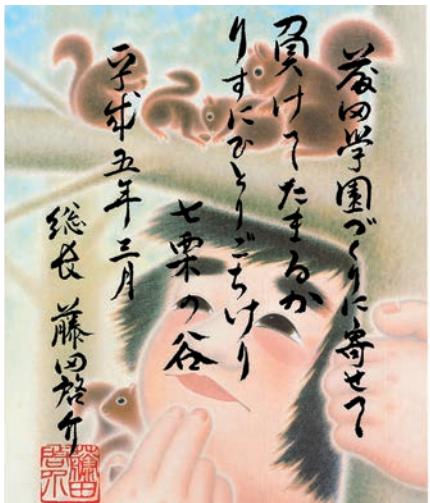


写真 15

折りには、学生に送るメッセージを記した藤田先生自筆の書きかけの原稿や、研究成果の論文の下書きなどを直接目にされることと思います(写真16)。その時に改めて藤田先生の存在や思いを感じ、未来へ繋いでいく自信に満ちた力が湧き出てくることを願っております。

最後に豊明校地にある獨創一理祈念館と七栗校地にできた総長藤田啓介七栗祈念室が、共に藤田先生と繋がる尊き空間(註3)であることを祈念いたします。

最後に、総長藤田啓介七栗祈念室改修開設にあたり、学園長小野雄一郎先生、理事長・学長星長清隆先生、藤田学園同窓会松山裕宇会長と同窓会役員の皆様、七栗記念病院園田茂院長、本部総務部、施設課辻岡副部長、旧研究所教職員の皆様に感謝申し上げます。

(註1)本学園創設者故藤田啓介先生は1971年に医学部設置認可が適い、それまで中断していた生命科学の研究活動を再開するための拠点を模索されていました。

1973年、現三重県津市久居に理事長・学長の執務室も兼ねた生薬研究塾を開塾されました。さらに温泉施設、プール、合宿所、キャンプ施設を併設し七栗学綜と命名された。1995年6月11日、我々は予期せぬ藤田先生の突然の訃報に接し、深い悲しみに包まれました。主のいない生薬研究塾の建屋はそのままで暫定的に豊明校地総合医科学研究所生薬研究塾研究部門(永津俊治所長兼任)、1998年藤田記念生薬研究所(葛谷博磁所長)に改称、2004年藤田記念七栗研究所(園田茂所長)に改称されました。

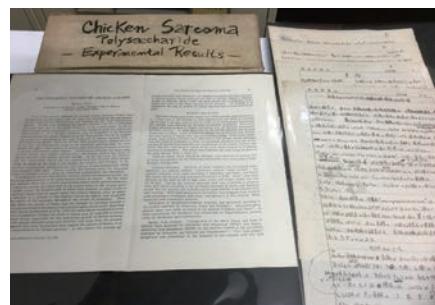


写真 16

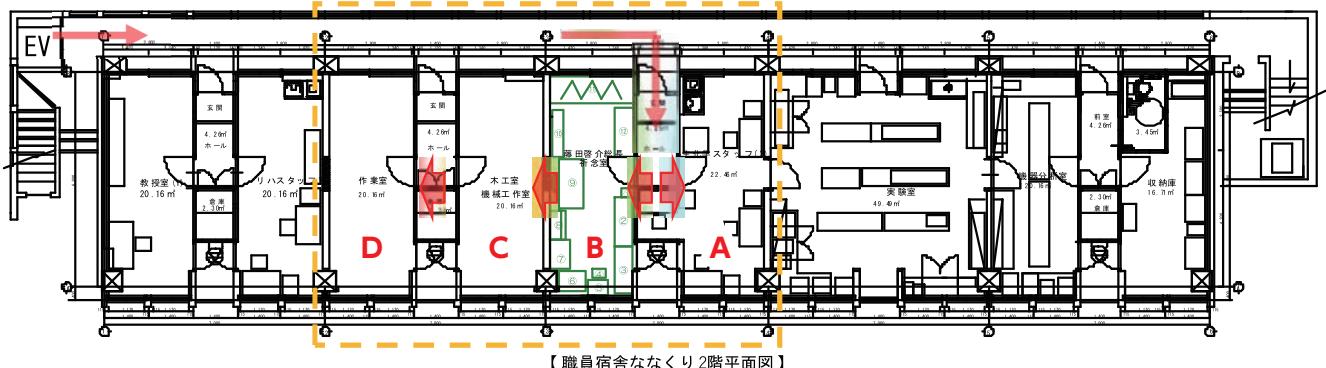
(註2)一方研究塾建屋の耐震構造脆弱が問題となり、移転が決定し研究塾の歴史を閉じることとなりました。その代替として2014年七栗サナトリウム病院宿舎ななくりの1,2階を改修した新たな藤田記念七栗研究所に継承され、生化学研究部門とリハビリテーション研究部門の研究活動が進められていましたが、3年後の2017年3月にこの研究所も閉鎖されました。1973年から2017年3月までの45年間引き継がれた藤田啓介先生の生化学講座も終焉を迎えることとなりました。

藤田啓介先生七栗祈念室は、ご存命であった1995年までに七栗で藤田先生と接した卒論実習生、病院実習生、PSAキャンプ参加全学校・学部生、合宿参加クラブ・同好会、教職員や七栗訪問者、七栗サナトリウムの職員など多数の七栗訪問者を写真に収めた情景をパネル写真で紹介しております。またそれ以降今日までの研究所や七栗サナトリウムから七栗記念病院の様子などの変遷を紹介しております。

(註3)豊明校地にある獨創一理祈念館は藤田先生が私学人として立派で優れた良き医療人として社会に貢献できる使命を果たすために、我自らを知り、我自らを見る可我見(かがみ)の空間として建立されたもので、言靈(ことば)のメッセージを感じ取る空間に対し、七栗祈念室は藤田先生の学者、教育者としてのお人柄を感じ取る空間を設けました。よって、この祈念館・祈念室は共に藤田先生の偉業、遺徳そしてお人柄を見学の皆様にお伝えできればと願っております。

エントランス：

宿舎ななくりのエレベータ2階から黒タイルでセパレートされた通路を七栗祈念室エントランスに向う途中、彫刻家山本真輔氏作「白い朝の乙女」像が目に入ります(写真17a)。エントランスのドアを開けると、左側面に七栗校地の航空写真パネル、右側面に宮田雅之作の切り絵「四季」の写真パ

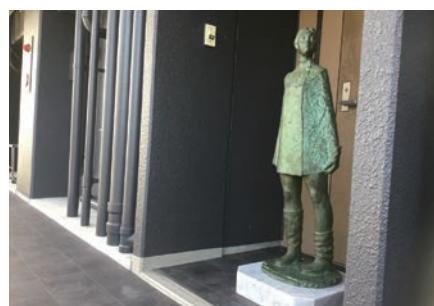


記念室を4つのゾーンに分ける構想

Aゾーン 歴史の場: Bゾーン 思索の場: Cゾーン 交流の場: Dゾーン 遺品の場:

図1 展示室(ゾーン)の概要

ネル、そして正面に学園創設者藤田啓介総長先生の笑顔の写真と対面します(写真17b,c)。



Aゾーン:

エントランス左がAゾーンです。3つのテーマから構成されています。藤田先生が七栗を訪れた、昭和39年頃の風景を眺めている写真や造成工事の様子の写真を紹介するコーナ(写真18a)。七栗バーデン・バーデン開発構想建設パーツ写真の展示、生薬研究塾の開設から七栗サナトリウムの開院式風景、その後の七栗記念病院までの変遷を写真パネルで紹介するコーナ(写真18b)、生薬研究塾での藤田先生と卒論研究生との研究室情景、当時研究に使用した研究機器と器具、リハ装具類の一部を展示了したコーナ。また藤田記念七栗

研究所生化学研究部門、リハビリテーション研究部門教職員のスタッフ写真や研究風景を紹介するコーナで構成されています(写真18c,d)。

Bゾーン:

藤田啓介先生と交流のあった方々からの工芸品、美術品、書などを展示するコーナとして、文化人と藤田先生との書簡のやり取り、映画監督黒沢明氏の映画赤ひげのスチール写真恵贈の秘話を展示了しました。また大学を興した稀な熱血漢と紹介されている書籍、偉大な教育者として玉川学園総長小原国芳氏が藤田先生を称えた書





写真 19a



写真 20a



写真 19b



写真 20b

籍、名古屋大学医学部生化学講座堀田一雄教授一門として紹介された記事なども展示しました。また桑原幹根元愛知県知事からの贈呈の書やお二人の写真などが展示されています。また、藤田学園理事長に30歳代で就任するのを嫌った藤田先生が、同郷の元国鉄総裁で新幹線生みの親の十河信二氏に面会し、理事長就任を嘆願された時の写真が紹介されています(写真19a,b)。

Cゾーン：

毎年、藤田先生が「師弟同業」の精神で新入生オリエンテーションの七栗行事として実施していた野外キャンプ場の紹介コーナーです。教職員、先輩、新入生が触れ合った写真と当時使用したキャンプ用品を配置しました。生薬研究塾卒論研究生、看護実習生、リハ実習生などの寮生活をスナップ写真で紹介しました。入寮した個室のドアに掲げられた退寮時の言葉を記したメッセージボードの展示コーナ、藤田先生とゼミ旅行や誕生日会などの写真を紹介したコーナを設けました(写真20a,b,c,d)。

動画再生視聴スペース：

藤田先生を撮影した動画や藤田先生が脚本された『聴感啓示』ほか、学園の歴史フィルムをDVD



化した作品が閲覧できるスペースを設けています。(写真21)

Dゾーン

藤田先生の1967年から1995年までの生薬研究塾での理事長・学長・講座教授としての執務資料などを展示しました。

また名古屋大学医学部第一生化学講座で手掛けられた基礎医学研究の資料や直筆の生原稿、あるいは島津製作所と開発されたティゼリウス電気泳動装置とその分析結果の泳動写真などとその論文化し

た生原稿が残っています。藤田先生の学者としての才能が25-30歳の若き時代に、終戦間もない実験器具のない時から創意工夫されていたのが伺えます。またこのゾーンには藤田先生のご趣味の音楽再生装置や当時珍しいビデオデッキのないころにUマッチクの再生装置でカラヤンなどのビデオ画像、レコード、CDなど見聞きし、人里離れ娯楽のない夜のひと時を喜んで見聞きしていました。そのような思い出のある学生には懐かしい展示品です。

またほかのコーナーには、藤田先生がご逝去された1995年6月の3か月前に行われた藤田先生の70歳お誕生日会を豊明校地スタッフ館2階で行った時の写真が展示されています。この年の卒論実習生から花束を贈呈され、優しく挨拶されている様子が残されています(写真22a,b,c,d,e)。

最後に藤田啓介先生七栗祈念室がリユアール・オープンとなり、藤田先生と学生との触れ合いの場面を多数写真で公開できました。平成10年ごろまでの在学生は、七栗野外キャンプを全員経験しました。藤田先生は、共同生活はつらいことがあっても連帯感が育まれ、チーム医療に繋がることを信じ師弟同業の実践として考えておられました。毎年4月中旬から5月中旬の新入生歓迎野外キャンプ開催時期は、総長藤田啓介先生自ら陣頭指揮をとり七栗生薬研究塾教職員全員と、豊明校地の引率の先生方と共に過ごされました。その様子など展示パネルにできなかった写真がアルバムにたくさん残っております。その時々の時代に七栗に訪れた同窓会の皆様には、



写真22a



写真22c



写真22e



写真22b



写真22d

是非機会を設けられて、七栗校地をご訪問ください。キャンプ場周辺の自然は今も変わりません。生薬研究塾は無人化していますが風景は今もかわりません。卒論生、病院実習生、ポリクリの医学生、研修医の皆様も数日滞在された方も是非七栗祈念室のご訪問を願っております。あなたが写っている写真があるかもしれません。

平成29年度 国家試験結果

■ 藤田保健衛生大学 医学部

学科	資格名	区分	受験者	合格者	合格率%	全国平均
医学科	医師 (第112回)	新卒	108名	99名	91.7%	93.3%
		既卒	11名	6名	54.5%	63.9%
		計	119名	105名	88.2%	90.1%

■ 藤田保健衛生大学 医療科学部

学科	資格名	受験者	合格者	合格率%	全国平均
臨床検査学科	臨床検査技師 (第64回)	96名	95名	99.0%	79.3%
看護学科	看護師 (第107回)	106名	106名	100%	91.0%
	保健師 (第104回)	15名	15名	100%	81.4%
放射線学科	診療放射線技師 (第70回)	59名	57名	96.6%	75.3%
リハビリテーション学科 理学療法専攻	理学療法士 (第53回)	57名	57名	100%	81.4%
リハビリテーション学科 作業療法専攻	作業療法士 (第53回)	47名	47名	100%	76.2%
臨床工学科	臨床工学技士 (第31回)	45名	44名	97.8%	73.7%
医療経営情報学科	診療情報管理士 認定資格 (第11回)	37名	37名	100%	66.3%

(注)医療科学部の受験者数は、既卒者を含みません。

(注2)診療情報管理士認定試験のデータは、3年次の実績です。

■ 藤田保健衛生大学 看護専門学校

学科	資格名	受験者	合格者	合格率%	全国平均
看護科	看護師 (第107回)	38名	38名	100.0%	91.0%

(注)看護専門学校の受験者数は、既卒者を含みません。

卒業生の活躍

(順不同)



藤田医科大学
研究支援推進センター
共同利用研究推進施設
生体画像解析室 講師

尾之内 高慶
(短期大学 衛生技術科 36回生)
(衛生学部 衛生技術学科 34回生)

受賞して 風戸研究奨励賞を

このたび私は、公益財団法人風戸研究奨励会より第11回風戸研究奨励賞を受賞しました。平成30年3月3日、経団連会館(東京都千代田区)で授賞式が行われました。風戸研究奨励賞は、電子顕微鏡を用いる研究提案に対して、実績があり且つ将来性のある優秀な研究者に贈呈される賞です。このような賞を受賞できたことは、誠に身に余る光栄と思っております。

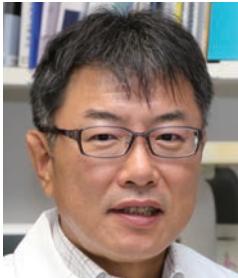
私が提案した研究は、パラフィン切片の同一部位を共焦点レーザー顕微鏡と走査型電子顕微鏡の両方で観察するという光-電子相関顕微鏡法を用いて、癌抑制遺伝子 Adenomatous polyposis coli が腸上皮細胞間接着構造の形成において果たす役割を解明しようとするものです。コ・メディカル形態機能学会から奨励賞、日本臨床分子形態学会から最優秀演題賞と論文賞、日本組織細胞化学会から論文賞を受賞という、私のこれまでの研究業績が高く評価され、風戸研究奨励賞の受賞につながりました。私が多くの賞を受賞できたのは、電子顕微鏡解析技術をご指導くださいました本学の磯村源蔵名誉教授、酒井一由准教授、野村隆士講師、岐阜大学の千田隆夫教授のおかげです。心よりお礼申し上げます。

私が所属する本学共同利用研究推進施設生体画像解析室では、学内からの電子顕微鏡標本作製や病

理組織標本作製の受託業務を行っています。所属スタッフは、私、塩竈和也兼任講師、井手富彦助教、前嶋(旧姓:上嶋)美香さん、小笠原(旧姓:加藤)さや香さん、平山将也くんで、全員が本学出身の臨床検査技師です。今後も生体画像解析室の所属スタッフ一同、本学の形態学的解析研究が推進するよう全力を尽くして参ります。



生体画像解析室のメンバー



藤田保健衛生大学病院
病院教授(第1・循環器内科)
国際医療センター副センター長
医療連携福祉相談部副部長
皿井 正義
(医学部 14回生)

母校の仲間に囲まれて

同窓会の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと拝察いたします。2018年1月1日付で第1・循環器内科病院教授を拝命いたしました。これまでご指導を受け賜りました諸先生方に心より感謝申し上げます。私は1985(昭和60)年に医学部に入學し、ワンドーフォーゲル部に6年間在籍し、多くの山に登りました。当時は衛生学部と一緒に活動していたので、衛生看護学科・衛生技術学科・診療放射線学科の仲間と一緒に山に入りテントで過ごしました。卒業後は本学で2年間研修しましたが、部の先輩が、医師、看護師、臨床検査技師、放射線技師となって大学で働いていたので、とても助けてもらい心強かったことを覚えてています。昨今、医療現場で多職種

連携が重要になってきましたが、学生時代にワンドーフォーゲル部で衛生学部の仲間と一緒に山に登った経験が、多職種連携におけるチームワークにとても活かされていると今あらためて感じています。現在、大学病院の地域連携および国際連携に携わっており、「RENKEI」をテーマに一層努力してまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



藤田保健衛生大学
医療科学部看護学科
精神・公衆衛生看護学
教授

世古 留美
(衛生学部・衛生看護学科 18回生)

歴史ある藤田学園の 看護教育

2018年7月1日付で藤田保健衛生大学 医療科学部看護学科 精神・公衆衛生看護学教授を拝命いたしました。ご推挙いただきました先生方、ご支援賜りました皆様方に厚く御礼申し上げます。私は1989年に衛生学部衛生看護学科を卒業し、最初は第1教育病院に看護師として就職しました。脳神経外科で故横山信義看護長の下指導を仰ぎながら最初の臨床看護を実践し、その後は整形外科で看護主任となり管理者としての最初の指導を現看護専門学校楠本順子校長から学びました。現在に至るまで働いてこれたのは最初にきちんと教育していただいたからだと思っております。本学医学研究科大学院に進むため、一度退職いたしましたが2003年に衛生学部衛生看護学科地域看護学助手として再度就職させていただきました。その間も本学医学部衛生学講座で予防医学を学びながら、保健師として個別支援から集団支援まで公衆衛生看護を実践してまいりました。学生の頃、社会人になった後も私の周りには多くの恩師の方の

教えや見守り、同級生、同窓生の助言や支え等のやさしさがありました。ともに学びともに歩んだ時間を大切に、新たな藤田学園、看護職の発展に貢献できるよう励んでいきたいと思います。これからもご指導賜りますようよろしくお願ひいたします。



就任のご挨拶

医療科学部医療経営情報学科
医療情報学
亀井 哲也
(衛生学部・診療放射線技術学科6回生)

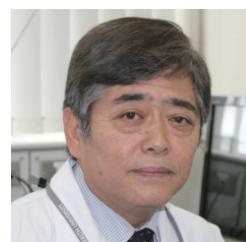
この度、平成30年4月1日付にて医療科学部医療経営情報学科の医療情報学教授を拝命致しました。この場をお借り致しまして、ご指導、ご支援賜りました多くの諸先生方に厚く御礼申し上げます。私は平成8年に藤田保健衛生大学衛生学部診療放射線技術学科(現 医療科学部放射線学科)を卒業後、故 古賀祐彦教授、故 折戸武郎教授のもとで放射線被ばくについて学び、更に日本原子力研究所(現 日本原子力研究開発機構)への派遣では、研究员として研鑽を積む機会を頂き、他領域共同研究の重要性を学びました。その後、大学院医学研究科では、医学部衛生学講座の故 大谷元彦教授のもとで情報技術の医療への利活用について学び、医療経営情報学科の前身である短期大学医療情報技術科に助手として採用されました。学生と共に学ぶ中で、日々蓄積されていく診療情報の重要性や利活用の可能性に興味を持つようになり、その好奇心が現在の医療情報に関する研究へとつながったと思います。教育の面では、学部教育だけでなく全国で診療情報管理士として働く卒業生のために、大学院教育をはじめとする卒後教育の場を提供していくことも使命だと

思っております。最後に、今日に至るまで、多くのご縁で様々な領域の先生方に支えられて参りました。諸先輩方の意思を引き継ぎ、今後は「良き医療人の育成」に微力ながら貢献したいと思っております。これからもより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



藤田医科大学
医療科学部臨床工学科
臨床工学技術学
教授
日比谷 信
(衛生学部衛生技術学科12回生)

臨床工学技術学教授に就任して



藤田保健衛生大学
客員教授
井上 孝
(衛生学部・衛生技術学科4回生)

藤田学園を退職して

平成30年3月に定年後再雇用(常勤)2年間の特任教授を満了し、本学園を退職いたしました。

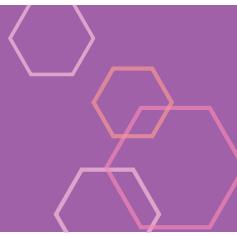
藤田保健衛生大学医学部で16年間、医療科学部で26年間の計42年間を藤田学園でお世話になりました。医学部では寄生虫学教室・微生物学教室、医療科学部で微生物学・公衆衛生学に配属され多くの先生方にご教示いただきました。また、平成13年から8年間は医療科学部教学局(現事務部)を兼務しました。

本学園での恵まれた医療教育環境の中でそれぞれの職務を遂行出来た事に対して、関係各位の皆さんに心から感謝申しあげます。

退職後は大学院保健学研究科共通科目(環境保健学概論・感染防護学)を一部担当させて頂いており、学生さんのキャリアの一端に及ぼすながらも関係することができる嬉しいことです。また、学園で培った経験を礎に、新たに介護福祉系の業に携わっています。学生の皆様は、卒業後に医療現場でスキルを磨くとともに、大学院保健学研究科を利用して研究に携わりスキルアップを図っていただきたいと願っています。

この後も、同じ医療資格を持つ仲間を作り育て、よき医療人の育成に精進してまいりたいと存じます。皆様のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

日本組織培養学会 第91回大会を開催して



大会長
藤田保健衛生大学
研究支援推進センター
再生医療支援推進施設 準教授
山本 直樹
(衛生学部・衛生技術学科23回生)



歴史ある日本組織培養学会第91回大会を平成30年(2018年)6月15日(金)・16日(土)の2日間、梅雨の時期でしたが薄曇りの中、グローバルゲート名古屋コンベンションホール メインホール(愛知県名古屋市)にて開催しました。大会当日は、180名を超える方々にご参加いただきました。今回学会で使用した会場は、名古屋駅から徒歩でもお越し頂ける2017年10月にオープンしたばかりの新しい施設で、今回の学会がこのメインホールでの初めての学会開催、こけら落としとなりました。第91回の大会テーマは、「基礎と臨床のcollaboration - 細胞がつなぐ研究の架け橋 -」とし、一般

演題(5セッション、口頭発表：18演題・展示発表：15演題)、奨励賞対象演題、Session in English、公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構 細胞療法研究開発センター長の川真田 伸先生の特別講演、シンポジウム(3セッション：12演題)、ランチョンセミナー(1演題)、さらに本大会では指定演題(2セッション：4演題)というセッションを設けさせていただき、多方面にわたる多彩な内容のご発表をしていただきました。

15日の夕方にはメインホール横の会場で懇親会を開催しました。大会長講演ならぬ「大会長公演」と題して、大学職員や卒業生

の有志数十名で結成されたアンサンブルで5曲演奏をお楽しみいただき、有意義な意見交換をしていただけたのではないかと思っております。

また、本学医療科学部臨床検査学科43回卒業生の平松範子さん(再生医療支援推進施設 CPC研究員)が奨励賞対象演題にエントリーし、厳正なる選考の結果、見事に奨励賞を受賞されました。無事盛会のうちに大会を終えることができましたのも、同窓会よりご支援を頂き、さらに本学の教員の先生方にも多数ご発表、ご参加いただけたお陰でございます。ここに書面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

日本組織培養学会 第91回大会



学会実行委員とともに



学会会場



学会懇親会にて

第20回日本看護医療学会学術集会開催報告

「超高齢社会を支える看護 －認知症高齢者と家族をまもり支える看護－」

学術集会長

朝日大学保健医療学部
看護学科

須賀 京子

(衛生学部・衛生看護学科15回生)



第20回日本看護医療学会学術集会を、岐阜県瑞穂市の朝日大学において平成30年9月15日(土)に開催しましたので報告いたします。開催にあたり、藤田学園同窓会より多大なご支援をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

日本看護医療学会は、医療ならびに福祉に関連する諸分野の知識や実践の体系化をはかり、国民が安心して利用できる包括ケアシステムの確立と健康増進に寄与することを目的として、毎年学術集会を開催しています。岐阜県での開催は12年ぶりで、より多くの地域医療に携わる専門職の皆様にご参加いただけるよう、テーマを「超高齢社会を支える看護－認知症高齢者と家族をまもり支える看護－」とし、認知症の人やその家族の暮らしや命を支えるために必

要な多職種の連携や協働、看護に求められること、今後の方向性など多方面から考えられるようなプログラムを設定しました。参加人数は233名であり、近隣の病院から多くの看護職の方々にご参加いただきました。

午前中のシンポジウムでは、「認知症ケアの現状と課題」をテーマに認知症認定看護師、歯科衛生士、保健師として岐阜県内の医療機関や地域でご活躍されている方々をシンポジストとしてお迎えし、認知症ケアへの取り組みやその成果、問題点と課題などをお話しいただきました。普段の活動の様子を具体的にご紹介いただき、参加者との活発な意見交換ができました。講演では、会話評論家としてテレビ番組にも多数ご出演されている朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科の藤野良孝先生によ

る「伝える技術 オノマトペ」をテーマに、コミュニケーションスキルや心を元気にするヒント、など会場が笑いに包まれる楽しいご講演をいただきました。また、一般公開の特別講演では朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科長の竹島伸生先生による「転倒予防のためのバランス運動の勧め」をテーマに、実技を取り入れたご講演をいただきました。参加者全員でのバランス運動は圧巻でした。一般演題29題は、口演と示説での発表で、各会場で活発に意見交換がされていました。

前日からの雨にもかかわらず多くの方にご参加いただき、学術集会を成功裡におさめることができました。深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



口頭発表セッション



ポスターセッション

いこいの広場コンサート

平成30年度 活動報告



研究支援推進センター 再生医療支援推進施設 准教授
山本 直樹 (左)

医療科学部 臨床検査学科 教授
大橋 鉛二 (右)

研究支援推進センター 再生医療支援推進施設 CPC研究員
平松 範子 (中央)

いこいの広場コンサートは今年で14年目となりました。今年は、大学病院が国際的医療施設評価認証機関のJCI(Joint Commission International)を7月末に受審することになっていたため、4月よ

りコンサートの開催を控えておりました。無事にJCIの認証を取得することができたため、10月よりコンサート再開に向けて準備をはじめ、今年は11月10日(第147回)と12月8日(第148回)に開催

し、2019年からは毎月開催する予定です。開催場所は、長年慣れ親しんできた大学病院旧棟1階の“いこいの広場”から、新しい大学病院B棟1階の吹き抜け広場“パーサージュ”に移動します。このB棟1階の広場が、再び“いこいの広場”という名称で皆様にご認識していただけるよう、努力して参ります。運営体系も教職員が中心となった“いこいの広場コンサート実行委員会”で開催して参ります。

最後に、「藤田学園同窓会」と「ユリカ株式会社」には毎年のように支援いただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後ともご支援のほど、宜しくお願ひいたします。



昨年まで開催されていた“いこいの広場”でのコンサート風景



再開した“いこいの広場コンサート”開催場所の大学病院B棟1階

FUJITA FESTIVAL 2018

晴自蹴～ HAJIKERU～



FUJITA FESTIVAL 2018
学園祭実行委員長
医学部3年
家田 知久

2018年度藤田学園学園祭実行委員長を務めさせていただきました、医学部3年の家田知久です。

今回の学園祭のテーマである「晴自蹴～ HAJIKERU～」には、「晴」には晴れ舞台、「自」には自分、「蹴」には今回学園祭の際に行われる球技大会という意味を込めました。

この年に一度の学園祭という晴れ舞台で一人ひとりが自分らしく輝けるように、との思いで、春からそれぞれの企画において会議を重ねてきました。

その中で、以前まではアセンブリなどでしか関わりのなかった医療科学部や看護専門学校の方々と、実際に会議を通して、"学園祭成功"という同じ目標に向かって皆で一致団結して頑張ってきました。

この経験は、"チーム医療、アセンブリ精神"を掲げる藤田学園の将来を担う医療人となる我々にとって、何にも代えがたい貴重な体験であることは間違ひありません。

私自身もこの経験を通して、一つの目標に向かって皆で頑張ることの素晴らしさを改めて再認識いたしました。

学園祭を迎えるまでは、我々の取り組み内容で、これまでの先輩方が成功させてきたような素晴らしい学園祭を再現できるかどうか、実行委員会の面々で悩むこともあります。しかし、とにかく自分たちのやれることをやり遂げよう、とお互いを励ましあいながら、なんとか無事に当日を迎えることができました。

当日は、ミスコンの参加者が集まらなかつたため、学生パフォーマンスとして代わりに追加募集した出演者も集まらず、ダンスサークルなどの発表時間を延ばすことで何とかするといったハプニングも起きましたが、実際にサークルの発表などを見て、人が集まって何か一つのものを創り出していく姿に感銘を受けました。

また、私が訪問した囲碁将棋部に、部員との囲碁将棋体験に保護者と来ていた高校一年生がいて話を聞いたところ、その子は「将来、臨床検査技師になりたくて医療系の大学への進学を考える中で、藤田医科大学の雰囲気が知りたくて学園祭にきました。」と話してくれました。それを聞いて、この学園祭が本学進学を考えている学生さんにとって有意義な時間となり、本学の魅力が少しでも伝わっていればいいなと感じました。

今、学園祭を終えて、本学の学生だけでなく、来場して下さった方々にとっても楽しい学園祭にすることができたのではないかと自負しております。

最後に、この学園祭開催に携わって下さった様々な方々に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



学園祭実行委員メンバー

2018年度 ホームカミングデーを開催して

同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと拝察いたします。

このホームカミングデーは、藤田学園の最初の卒業生として南愛知准看護学校1回生が社会に巣立つてから50年目という節目になることから、一昨年度(平成28年度)より藤田学園と藤田学園同窓会が共同でホームカミングデーを毎年行うことを決め、第3回の本年は平成30年10月27日に開催いたしました。

今回は短大の一回生が卒後50年を迎える、19名の

方がホームカミングデーにおいて初めて50年の社会貢献を讃える表彰を受けられました。そして医学部一回生が、ようやく卒後40年の功績を称える表彰を受け、各学部卒業生表彰者の仲間入りとなることができました。

藤田医科大学に改名し、更に進化をしていかなければならぬ今こそ、このホームカミングデー開催が、今まで以上に卒業生が一丸となって学園を応援できる起点になることを願っております。

藤田学園同窓会 会長 松山裕宇(6回生)

表彰を受ける卒後50周年記念の短大1回生



2018年度ホームカミングデー集合写真

同窓会を開催して (順不同)

名古屋保健衛生大学衛生学部衛生技術学科9回生(1980年卒) ~5年後の再会を約束して~

日時：平成30年5月11日 場所：浜松市プレスター ウー 参加者：25名

名古屋保健衛生大学衛生学部衛生技術学科9回生の同窓会を平成30年5月11日に浜松市プレスター 15階 21世紀俱楽部で開催しました。

3年前に名古屋で行われた同窓会の約束もあり、第67回日本医学検査学会の学会長に任命された同窓の山口浩司君と副学会長の三宅和秀君を応援する目的と、多くの同窓が還暦・定年を迎える第二の人生の出発をたたえ合う目的で開催しました。

平日の開催とあって参加者は25名と少なかったのですが、宮城県や福島県また香川県などの遠方からも参加頂いて、懐かしく楽しい時間を過ごすことができました。正直、誰か分からぬくらい雰囲気が変わっていた方もいらっしゃいました。

しゃいましたが、話をしていると記憶がよみがえり、学生時代に戻ったような気分になりました。話題の中心は山口君と三宅君で、「学生の頃にはよく出席を取ると授業を二人で抜け出しサボっていた。

まさか全国学会の学会長に任命されるなんて信じられない」と参加者は口ぐちに話をしていました。

最後に次回は5年後に同窓会開催する約束をして解散しました。

(幹事 曽根利久 米津宜則)



衛生学部衛生技術学科4回生、 愛媛県で絆をさらに深めました。

日時：平成30年9月29日 場所：愛媛県松山市 参加者：33名

平成30年9月29日、衛生学部衛生技術学科(現、医療科学部臨床検査学科)4回生が愛媛県松山市で第8回同窓会を開催いたしました。卒業生66名中当初の参加予定者は45名でしたが、悪天候のために航空機の欠航などが相次ぎ、最終的に33名の参加となりました。同窓会では、まず藤田学園同窓会事務局の丸田一皓局長(衛生学部1回生)より来賓のご挨拶をいただき、次いでこれまでに亡くなった3名の同期生に黙祷を捧げて、懇親会が始まりました。今回は代表幹事を近藤恵子さん(旧姓、白石)が務めました。彼女は三味線奏者として地元の演奏会にたびたび出演し、また芸者さんに民謡と三味線を教えていることもあります。懇親会では彼女の三味線演奏やその伴奏による芸者さん

の優雅な日本舞踊の披露がありました、三味線の音色に合わせてみんなで楽しく合唱したり、最後は松山が発祥の野球拳に興じて、時間を忘れて大いに盛り上がりました。懇親会後の二次会では、恒例のスライド撮影会。学生時代やこれまでの同窓会のスライドが写し出されるた

びに歓声があがり、ホロ苦い思い出話に花が咲きました。翌日や翌々日の観光(道後温泉、坂の上の雲ミュージアム、内子街並み、

砥部焼、加計学園獣医学部ほか)の詳細は紙幅が尽きましたので省きますが、同期生の多くが66歳前後の高齢者の域に入った節目の今回の同窓会で、私たちはさらに絆を深めることができました。

(新保 寛／記)



短期大学衛生技術科14回生(1982年卒)

～卒業後はじめての同窓会～

日時：平成30年9月8日 場所：名鉄ニューグランドホテル 参加者：40名

卒業後はじめての同窓会が名鉄ニューグランドホテルで行われ、全国から40名の同窓生が参加してくださいました。

参加者には、同窓会が夕方からの開催なので豊明のキャンパスを見学してから参加してくれた同窓生もいて、会場では昔話で盛り上がりして楽しいひとときを過ごせる事ができました。



名古屋衛生技術短期大学10回生同窓会 「繋がることの喜び」

日時：平成30年10月27日 場所：e-oriental banquet 参加者：28名

「久しぶり！」「元気だった？」と懐かしがる声の中、第3回藤田学園ホームカミングデー懇親会がANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋で開催され、私たち名古屋衛生技術短期大学第10回生の仲間も参加させていただきました。新しく大学名も藤田医科大学に名称変更され、世界に誇れる大学になったとの報告を受け、自分たちの学び舎を自信たっぷりに伝えることができる喜びを共有させていただきました。

その後、再会の喜びの思いを抱いたまま会場近くのe-oriental banquetに移し、同窓会を開催しました。2年前に還暦の節目の同窓会を開催し、今回はそれぞれの都合もあり28名の参加ではありましたが、元気に頑張っている姿を見し、懐かしくまた嬉しい時間を共にすることことができました。事前に出欠確認の案内に近況報告を記していただき、当日その内容をリーフレットに掲載し、今回参加できなかった方々の姿を思い浮かべながら歓談。また途中からはビンゴゲームや抽選会を行い、愛知県の特産品を景品に懐かしさと笑いに包まれた時を過ごしました。仲間からは「多感な時期を共

に過ごした人たちだから、人生の中でも大切な仲間だね」「みんなどうしているか気になっていた」という言葉をいただき、みんな繋がっていていのだと同窓会を開催する大切さをしみじみと感じました。人と人との繋がりは何よりの財産と日々感じています。同じ臨床検査技師を目指し、勤務地は違っても、医療チームの一員としてそれぞれ頑張ってきた仲間。今は定年を迎える第二の青春を謳歌している方、まだまだ現役で活躍している方などそれぞれですが、20歳前後の大切な時間を共に学び過ごした学友は本当に大切な仲間だと思います。今後はお互いに連絡が取れるように、「10回生の仲間での連絡ツールが欲しいね」との想いから、お互いの携帯電話番号やメールアドレスの交換などをしました。しかし、今回お

逢いすることができなかつた方々のためにも、また連絡を取る手段がない方々のためにも、何らかの方法を考えて行かなくてはいけないと思いました。まず手始めに現在の情報を登録していくことかと思います。

繋がっていることの大切さを改めて感じ、そのために自分自身ができるを見つめ直す良い機会を与えていただきました。次回同窓会を開催するときは、すべての同窓生に連絡ができ、参加できなくても仲間の現在の状況が伝え合えればと思います。繋がっていることの喜びをいつまでも忘れないでいたいと思う会でした。

【幹事 中井規隆】



同窓会・各部会お知らせ

看護専門学校部会

看護専門学校部会では、藤田学園同窓会を全面的にバップアップしております。主な活動内容は次の通りです。
新卒業生、既卒者及び学生名簿の管理を藤田学園同窓会名簿委員会と協力して行っております。(住所変更、勤務先変更の際は是非お知らせください)また、藤田学園同窓会奨学基金への資金援助や新卒業生への卒業記念品贈呈(ナースウォッチ)、教育教材寄贈(今年度は実習教材を寄贈予定)などです。

2018年4月21日(土)に看護専門学校同窓会総会を開催いたしました。次年度は、2019年4月20日(土)13時から、看護専門学校同窓会総会を藤田医科大学看護専門学校で開催の予定です。同窓生の参加をお待ちしています。

三年課程では、この春に16回生の39名が卒業(看護専門学校累積数3,340名)し、そのうちのほとんどが藤田学園関連の病院で勤務しています。そして、第19回の新入生を迎えるました。

看護専門学校では、図書室の充実化が図られております。同窓生の図書の利用も歓迎しております。是非ご利用ください。

卒業生の動向について同窓生にお知らせしたいと思います。同窓会等を行われた際には、是非お知らせください。あけばの杉に掲載したいと思います。よろしく、お願いいいたします。

連絡先：藤田医科大学看護専門学校事務局
(電話番号 0562-93-2593、FAX 0562-93-9394)

短期大学部会

藤田保健衛生大学短期大学同窓会では、10月13日(土)17時から名古屋市内において、総会及び懇親会を開催しました。総会では以下の事項が審議、承認されました。

1. 平成29年度活動・会計報告
2. 平成29年度会計監査報告
3. 平成30年度予算案
4. 平成30年度短期大学同窓会役員案
5. その他

総会の開催に際しましては、藤田学園同窓会からも部会活動としてのご支援を賜りましたので、ここにお礼申し上げます。

本年度は、若い卒業生も多く顔を出して下さり親睦を深めることができました。また、会長より、「母校である短期大学は既に閉校し、新たな4年制大学医療科学部として発展しています。その医療科学部は来年度からさらに2学部(医療科学部と保健衛生学部)へと、より専門性を持った形に分離、発展して行きます。本同窓会としても母校の発展や後輩への支援に協力することを中心とした事業活動になると思います。また、役員会としては卒業生からの問い合わせや希望等への対応にも努め、会員の親睦、情報交換の場として活動したいと考えています」との挨拶がありました。

同窓生の皆様には、今後とも、短期大学同窓会を明るく楽しい形にしていきたいと思いますので、引き続きご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(短期大学同窓会会长 寺平良治)

専 学 部 会

専門部会では各学校・学部との協調のもと会員相互の交流と親睦を目指して同窓会活動に参画しています。

近々発刊されます同窓会名簿は卒業生の絆とも言えます。クラス会を企画、運営される際には、名簿の活用を是非にご検討下さい。

尚、運営上の問題点やご意見・ご希望など下記にまでお送り下さい。(連絡先) E-mail ; mkokubo1947@gmail.com

医療科学部部会(藤衛会)

医療科学部同窓会である一般社団法人 藤衛会は、2018年4月現在、臨床検査学科5,405人、看護学科2,546人、放射線学科1,375人、リハビリテーション学科理学療法専攻576人、同学科作業療法専攻450人、臨床工学科302人、医療経営情報学科257人の卒業生と、藤田保健衛生大学大学院保健学研究科修士課程434名、さらに2015年に開学した博士後期課程4名の修了者を合わせて11,349名から構成されています。

藤衛会では、卒業式の卒業記念品(印鑑)、各学科卒業生の周年記念同窓会支援、支部設立の支援、本学関連の学会支援要請に対する補助金援助、同窓生による学術講演会の支援、在学生及び留学生の国際交流支援等を行っております。本年度は、「平成30年7月豪雨災害(西日本豪雨)」への支援として、中日新聞社社会事業団事務局に、義援金(25万円)を寄附いたしました。また、学校法人藤田学園に対し、医療科学部7号館1階にAED 1台を現物寄附いたしました。さらに、同窓会支部の立ち上げについて、藤衛会 臨床工学技士支部も発足いたしました。

また、2018年10月10日からの藤田医科大学への校名変更、2019年4月より、医療科学部に加えて新たに保健衛生学部が開設されることから、定款及び細則変更は10月6日(土)に開催された藤衛会総会で代議員及び出席者の皆様から満場一致でご承認をいただきました。なお、藤衛会の詳細な活動につきましてはホームページでご確認ください(<http://www.fujiita-hu.ac.jp/~dousou68/index.html>)。

今後も、「一般社団法人 藤衛会」の発展に尽力いたす所存です。同窓生の皆様方のご協力、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。 (藤衛会会长 濱子二治)

医学部部会(藤医会)

平成29年4月から藤医会第6代会長の2期目を拝命して、大学病院の特命教授を続けながら、同窓会活動に関わっております。藤田学園に入学して以来この学園のありのままを46年間にわたり直視してきましたので、様々な経緯は熟知しております。この経験を生かして、医学部の50周年を藤田啓介先生が建学をされたときに、理想とされていた医学部に成熟させるべく全力で活動をさせていただいております。副会長を根木浩路先生(6回生)大槻眞嗣先生(11回生)、篠崎仁史先生(15回生)に留任していただきバランスの良い藤医会活動ができるおります。私も同窓会活動の円滑な実施に大局的に取り組めるようになりました。藤田学園同窓会の皆様におかれましては、藤医会の活動にご理解を賜れますようくれぐれも宜しくお願い申し上げます。藤医会の活動としましては、年2回の会報の発行、2年に1回の会員名簿の発行、年1回の総会、卒業生の教授就任記念講演会・祝賀会の開催、および各支部の支部会訪問を行っております。詳細はホームページをご覧いただけましたら幸甚に存じ上げます。 (藤医会会长 黒田 誠)

カズモス部会

カズモス同窓会は、1988年に第1回生の卒業生を輩出し、今年で30年、閉校して20年を迎えることができました。また学園内の教職員先生方の引退時期にもなりましたので、先生方への感謝を兼ねて、カズモス閉校20周年記念同窓会懇親会を開催いたしました。

会場は名古屋市内において、参加者は、同窓生11人、教職員先生6人の計17人の参加でした。久しぶりに同窓生や先生方々を拝見し、昔話や現況の話が聞くことができ、懐かしさと月日の速さを感じたひと時でした。

カズモス同窓会部会は、少人数ながら藤田学園並びに同窓会に協力、支援しながら、同窓生との交流や親睦を深めることを同窓会活動としていきたいと思います。

同窓生の皆様には、今後ともカズモス同窓会活動のご理解ご支援をいただき、次回の同窓会懇親会には、同級生をお誘い合わせの上参加をよろしくお願ひします。

また同窓会へのご意見、ご要望、住所変更等の連絡は、下記連絡先にお送りください。

連絡先 FAX 0587-50-8942

E-mail : nursing-net@onyx.ocn.ne.jp

(カズモス同窓会会长 兼田道男)

「'18名簿 藤田学園同窓会誌」の発行

平成30年9月に「'18名簿 藤田学園同窓会誌」を発刊いたしました。大学院を含む同窓会員数は延べ30,541名になりました。一方で、住所不明者数の合計は5,342名で、全会員数の19.0%です。物故者は337名です。名簿をご購入いただいた会員の皆様、賛助金をいただいた会員の皆様、広告を掲載していただいた会員の皆様と業者の皆様に心より御礼申し上げます。会員名簿は同窓会の大切な財産であります。会員の皆様の住所変更は同窓会のホームページから登録することができます。会員の皆様の継続した動向調査・不明者追跡調査への協力をお願ひします。会員名簿は会員の皆様と母校を結ぶ「絆」です。皆様のお力でより大きく成長させていただきたく存じます。

会員サービス

藤田学園同窓会では、アセンブリ精神に則り様々な会員サービスを行っております。会員の皆様の、学部・学校、学年を超えたネットワーク造りを推進しています。下記よりお問い合わせ下さい。

主な支援事業

1. 2019年度藤田学園ホームカミングデーの開催(平成31年10月26日予定)
2. 学会などにおける親睦会支援
3. 支部設立支援、支部総会・懇親会支援
4. 県人会開催の支援
5. 学会、学術集会、研修会、研究会の支援
6. 会員の研究補助
7. 県人会、クラス会など開催のための名簿と宛名シールの提供

県人会を開催しませんか!

藤田学園同窓会会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。全国の職場では、たくさんの藤田学園同窓生がご活躍のことと存じます。ところが、年齢が離れ、さらに職種が異なりますと、なかなか藤田学園同窓生として知り合う機会は意外に少ないのではないでしょうか。

そこで、同窓会からの提案です。皆様の都道府県単位或いは地方単位で、県人会を開催しませんか? 県人会或いは地方会活動を通じて、世代と職場の垣根を越えた親睦を深めることができれば、お互いの情報交換のみならず、母校の旧知を訪ね、新しきを知る上で、大いに役立つではないでしょうか。

2019年度 藤田学園ホームカミングデーの開催!

ホームカミングデーとは、藤田学園と同窓会が卒業生の皆様を母校にお招きし、懐かしい母校の見学、恩師・学友との再会、学部・学校・学年を超えた交流の輪を拓げていただくための企画です。

2019年も2019年度 藤田学園ホームカミングデーを開催いたします。卒業生は、何方でも参加できます。この機会にクラス会二次会を企画しませんか?

参加は無料です。同級生でお誘い合わせの上、同窓会ホームページよりお申し込み下さい。ご家族同伴での参加も「OK」です。

同窓会へのお問い合わせ

〒470-1192

愛知県豊明市杏掛町田楽ヶ窪1番地98

藤田学園同窓会事務局

電話・ファックス : 0562-93-5674

e-mail : dosokai@fujita-hu.ac.jp

http://www.fujita-hu.ac.jp/dosokai/



我慢人形・祈り人形

第39回 一般社団法人藤田学園同窓会 総会議事録

日 時：2018年11月10日(土)15:00～16:00

場 所：藤田医科大学3号館1F104講義室

代議員：43名(内委任状22名)／56名

理 事：14名／23名

監 事：1名／3名、事務局：1名、陪席者：7名

開会に先立ち、志半ばにして逝去された同窓生と藤田学園教職員に対し黙祷が捧げられた。

I. 開会の辞

II. 会長挨拶

III. 議長選出

定款19条に則り、10月11日に開催された理事会の承認により副会長が議長に選任された。

IV. 代議員紹介

各部会から選出された2017年度・2018年度代議員が紹介された。(別掲)

V. 議事

1. 2017年度事業報告

2017年度において以下の事業が行われたことが報告された。

1)会員相互の親睦や扶助に関する事業

- (1)2017年度藤田学園ホームカミングデーの開催、卒後周年記念者表彰
- (2)2018年度藤田学園ホームカミングデーの企画・準備(10月27日18:00～20:00開催)
- (3)平成30年7月豪雨災害義援金の寄付(中日新聞社会事業団)

2)部会・支部活動支援等に関する事業

- (1)支部設立支援に関する事業は該当なし
- (2)部会支援として、カズモス部会と短大部会の総会及び懇親会を支援
- (3)会員の教育と資質向上に関する事業
- (1)日本転倒予防学会 第5回学術集会(2018.10.7開催)
- (2)第67回日本医学検査学会(2018.5.12～5.13開催)
- (3)日本組織培養学会 第91回大会(2018.6.15～6.16開催)
- (4)第15回国際トリプトファン学会学術大会(2018.9.18～9.21開催)
- (5)第20回日本看護医療学会学術集会(2018.9.15開催)
- (6)幸福度についての研究論文の英訳(同窓会会員動向調査論文、投稿中)

4)学生会員育成に関する事業

- 藤田学園同窓会奨学金基金充実費として100万円を積み立て

5)会員の就職活動支援に関する事業

- 藤田学園キャリア支援課と連携(あけぼの杉へのチラシ同封)

6)機関紙、会員名簿及び動向調査に関する事業

- (1)「第37号あけぼの杉」の発刊、「第38号あけぼの杉」の編集

- (2)9月25日に'18名簿発刊、作成費用積立600万円より1,013,512円を支出

- (3)大学院を除く会員数：28,153名、住所不明者：5,342名、物故者：337名

7)学校法人藤田学園の後援に関する事業

- 学生会員へのお祝いとして入学記念品及び卒業記念品の贈呈

8)その他の事業

- (1)獨創一理基金充実費として500万円を積

み立て

- (2)50周年記念事業寄付金700万円を寄付(50周年記念誌とDVDを受贈)
- (3)会議の開催(総会1回、理事会7回開催)
- (4)愛知県私立大学同窓会連合会加盟、総会・懇親会出席
- (5)同窓会事務の運営・管理

9)奨学金基金事業

- (1)一般会計より100万円を積み立て、基金の充実
- (2)卒業生9名より奨学金返還、内1名が完済
- (3)6名の奨学生を採用、奨学金貸与

10)獨創一理基金事業

- (1)一般会計より500万円を積み立て、基金の充実
- (2)グランドピアノ修理費立替金130万円を一般会計へ返済
- (3)8mmフィルムのDVD化
- (4)七栗校地総長祈念碑庭園環境整備費として学園への奨学寄付
- (5)卒業アルバムの購入
- (6)七栗総長祈念室設営のための消耗品の購入

2. 2017年度決算報告

2017年度藤田学園同窓会収支計算書、藤田学園同窓会奨学金基金収支計算書、獨創一理基金収支計算書について会計報告が行われた。(別掲)

3. 2017年度監査報告

2017年度藤田学園同窓会収支計算書及び財産目録、2017年度藤田学園同窓会奨学金基金収支計算書及び財産目録、2017年度獨創一理基金収支計算書及び財産目録について村田監事より監査報告が行われた。(別掲)

採決の結果、以上の2017年度の事業および決算が満場一致で承認された。

4. 細則の改定について

大学名改称に伴う一般社団法人藤田学園同窓会細則の改定について、新旧対照表に基づき審議したところ、保健衛生学部の開学日と当細則の施行日の整合性を図るため、会長に一任することとした。結果、以下の改定細則が承認された。定款については改定事項がないことが報告された。

第2条 当法人は、藤田学園の各教育機関を単位とした下記の部会を置く。

- (1)藤田医科大学看護専門学校同窓会
- (2)藤田保健衛生大学短期大学同窓会
- (3)藤田学園医学技術専門学院同窓会
- (4)藤田医科大学医療科学部と保健衛生学部同窓会
- (5)藤田医科大学医学部同窓会
- (6)藤田コンピュータ専門学校同窓会
- (7)藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校同窓会

附則
4. この改定細則は2018年11月10日から施行する。

5. 2018年度事業計画案

以下のように事業計画が提案された。

1)会員相互の親睦や扶助に関する事業

- (1)2018年度ホームカミングデーの開催(2018年10月27日(土)18:00～)
- (2)2019年度ホームカミングデーの企画(2019年10月26日(土)を予定)
- (3)学会などにおける親睦会支援

2)部会・支部活動支援等に関する事業

- (1)支部設立支援、支部総会・親睦会支援
- (2)同窓会部会の支援
- (3)県人会開催の支援

3)会員の教育と資質向上に関する事業

- 学会、学術集会、研修会、研究会の支援、会員の研究補助

4)学生会員育成に関する事業

- 藤田学園同窓会奨学金基金充実費の積み立て

5)会員の就職活動支援に関する事業

- キャリア支援課と協力し、会員の就職活動支援

6)機関誌、会員名簿及び動向調査に関する事業

- (1)機関誌「第38号あけぼの杉」発行、「第39号あけぼの杉」発行準備
- (2)名簿管理メンテナンス

7)学校法人藤田学園の後援に関する事業

- 教育の支援として、学生の学会参加支援、入学記念品、卒業記念品の贈呈、いこいの広場コンサート支援、学園祭の協賛・補助、学生環境改善プロジェクト支援、等々

8)その他の事業

- (1)獨創一理基金充実
- (2)総会、理事会の開催
- (3)愛知県私立大学同窓会連合会員校として活動
- (4)個人情報漏洩対応損害賠償保険継続
- (5)同窓会館維持運営
- (6)ホームページ管理

9)奨学金基金事業

- 基金の充実、奨学金貸与・返還

10)獨創一理基金事業

- (1)学園創立50周年記念事業への寄付
- (2)七栗校地総長祈念碑庭園環境整備、総長祈念室設営
- (3)仏像、宝冠、華鬘の移設
- (4)第4回獨創一理ワークショップ開催

6. 2018年度予算案

2018年度の事業計画及び予算が満場一致で承認された。(別掲：2018年度藤田学園同窓会収支予算、藤田学園同窓会奨学金基金収支予算、獨創一理基金収支予算)

7. 質疑応答

特になし。

VI. 議長解任

VII. 閉会の辞

2019年度 入学試験スケジュール

藤田医科大学 大学院

研究科名称	課程	試験区分	募集人員	出願期間(〆切必着)	試験日	合格発表日	試験会場
医学研究科	博士課程	第一次募集	52名	8月13日(月)から 8月24日(金)まで	9月 4日(火)	10月 5日(金)	本学
		第二次募集		1月21日(月)から 2月 1日(金)まで	2月12日(火)	3月 6日(水)	本学
保健学研究科	博士後期課程	第一次募集	8名	8月13日(月)から 8月27日(月)まで	9月 3日(月)	9月 7日(金)	本学
		第二次募集		1月28日(月)から 2月12日(火)まで	2月18日(月)	2月22日(金)	本学
	修士課程	第一次募集	50名	8月13日(月)から 8月27日(月)まで	9月 3日(月)	9月 7日(金)	本学
		第二次募集		1月28日(月)から 2月12日(火)まで	2月18日(月)	2月22日(金)	本学

藤田医科大学 医学部

学科名称(定員)	試験区分		募集人員	出願期間(〆切必着)	試験日	合格発表日	試験会場
医学科 (120名)	ふじた未来入試 (AO入試)	高3枠と 高卒枠 合わせて 約15名	11月 1日(木)から 11月 8日(木)まで	一次：11月11日(日)	11月15日(木)	本学	
				二次：11月18日(日)	11月24日(土)	本学	
	一般入試	前期	約80名 [地域枠] [5名を含む]	12月 3日(月)から 1月18日(金)まで	学科： 1月29日(土) 面接： 2月 7日(木) または 2月 8日(金)	2月 4日(月)	東京・名古屋・大阪
					学科： 3月 3日(日)	3月 8日(金)	東京・名古屋
		後期	センター利用 (後期)と合 わせて15名 [地域枠] [5名を含む]	1月30日(水)から 2月22日(金)まで	面接： 3月14日(木)	3月20日(水)	本学
					一次：センター試験	2月15日(金)	
	センター試験 利用入試	前期	約10名	12月 3日(月)から 1月18日(金)まで	二次： 2月19日(火)	2月22日(金)	本学
		後期	一般(後期) と合わせて 15名	1月30日(水)から 2月22日(金)まで	一次：センター試験	3月 8日(金)	
					二次： 3月14日(木)	3月20日(水)	本学

藤田医科大学 医療科学部・保健衛生学部

■ 募集人員

学 部	学 科	定 員	募集人員						
			推薦入試	アセンブリ 入試	一般入試		センター試験利用入試		
医療科学部	医療検査学科	140名	30名	5名	70名	15名	10名	5名	5名
	放射線学科	90名	20名	3名	35名	10名	7名	7名	8名
保健衛生学部	看護学科	135名	30名 ^{※1}	3名	74名	10名	10名	3名	5名
	リハビリテーション学科 理学療法専攻	70名	10名	4名	36名	6名	8名	3名	3名
	リハビリテーション学科 作業療法専攻	45名	6名	3名	24名	3名	5名	2名	2名

※1 一般公募制推薦、指定校推薦及び社会人自己推薦を合わせた人数

■ 入試日程

試験区分	出願期間(〆切必着)	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入試	11月 1日(木)から 11月12日(月)まで	11月17日(土)	11月24日(土)	本学
アセンブリ入試(AO入試)	11月14日(水)から 12月 3日(月)まで	第1次試験 12月 8日(土)	12月14日(金) ^{※2}	本学
		第2次試験 12月23日(日)	12月26日(水)	
一般前期入試	1月 4日(金)から 1月16日(水)まで	1月23日(水)	1月31日(木)	本学(放射・リハ) 名古屋(医療検査・看護) 金沢・浜松・四日市・大阪・福岡(全学科)
センタープラス入試	1月 4日(金)から 1月30日(水)まで	一般前期入試：1月23日(水) センター試験：1月19日(土) 1月20日(日)	2月14日(木)	
センター試験利用前期入試	1月 4日(金)から 1月30日(水)まで	センター試験 1月19日(土)・20日(日)	2月14日(木)	
センター試験利用後期入試	2月21日(木)から 3月 8日(金)まで		3月15日(金)	
一般後期入試	2月 4日(月)から 2月20日(水)まで	2月27日(水)	3月 6日(水)	本学

※2 第1次試験結果発表日

藤田医科大学看護専門学校

学科名称(定員)	試験区分	募集人員	出願期間(〆切必着)	試験日	合格発表日	試験会場
看護科(40名)	推薦入試	約15名 ^{※3}	11月 5日(月)から 11月20日(火)まで	11月24日(土)	11月28日(水)	本校
	一般入試	約25名	1月 8日(火)から 2月 1日(金)まで	2月 8日(金)	2月15日(金)	本校

※3 指定校推薦約8名を含みます